平成 26 年 11 月 7 日(金)発行

奈良県感染症情報

平成 26 年 第 44 週(10 月 27 日～11 月 2 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 気になる話題 インフルエンザワクチンについて

❖定点把握感染症報告状況(定点当たりの患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	2.03	(1.65)	→	→	→	↗
2	手足口病	1.00	(0.68)	↑↑	↑	↑↑	→
3	A群溶連菌咽頭炎	0.97	(0.53)	↑	↗	↗	↑↑
4	RS ウイルス感染症	0.94	(0.59)	↗	↗	↗	↓
5	突発性発しん	0.50	(0.32)	→	→	→	↓

発生状況:大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
増減:過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

感染性胃腸炎の定点当たりの報告数が先週と比較すると上昇していますが、本県と隣接する大阪府、京都府、三重県の患者数よりは少ない状態です。今後の動向が気になります。ノロウイルスは感染力がとても強く、アルコール消毒は効果が無く次亜塩素酸を用いた消毒が効果的です。予防対策について確認をしましょう。

インフルエンザは先週から横ばいですが、郡山、桜井、葛城保健所管内から報告がありました。ＲＳウイルス感染症は、先週と比べ報告数が上昇しています。患者は２歳までの子どもが中心です。

時季外れの手足口病が、桜井、葛城保健所管内で流行しています。原因ウイルスは飛沫感染や経口感染が主なものです。手洗い・うがいをこまめにしましょう。

朝晩の冷え込みが厳しく体調管理が難しい時期です。感染症の予防に努めましょう。

✤小児科外来情報✤

北部地区(矢追医院)

水痘とインフルエンザ予防接種で外来は多くなっているが、対象感染症はまだ少ない状態です。インフルエンザもその後ありません。寒くなってきましたがノロウイルスの胃腸炎もまだ無く、低気圧の通過で喘息が増えている程度です。RS ウイルスもありません。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数はそう多くない。
軽度の感冒が主。インフルエンザはまだない。
乳児 RS があり、年長児でも疑い例がある。
嘔吐のノロ様の感染性胃腸炎が少しある。ロタはまだない。
その他 A 群溶連菌感染症が少し。

南部地区(県立五條病院小児科)

朝晩の気温の低下、空気の乾燥の影響で、咳や鼻汁を伴う呼吸器感染症が急増。40℃以上の高熱の気管支炎併発例もあり。

また、下痢中心の胃腸炎も増えてきている。水痘、溶連菌感染症も散見される。

❖定点把握感染症報告状況❖

平成 26 年 第 44 週 10 月 27 日 ～ 2 日

保健所別報告数	奈良県	北部		中部		南部	
		奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野
インフルエンザ定点数	*55*	*11*	*16*	*11*	*11*	*2*	*3*
インフルエンザ	6 (0.11)		3 (0.19)	1 (0.09)	2 (0.18)		
小児科定点数	*35*	*7*	*10*	*7*	*7*	*1*	*2*
RSウイルス感染症	32 (0.94)	8 (1.14)	7 (0.70)	2 (0.29)	15 (2.14)		
咽頭結膜熱	9 (0.26)	2 (0.29)	2 (0.20)	2 (0.29)	2 (0.29)		1 (0.50)
A群溶連菌咽頭炎	33 (0.97)	8 (1.14)	13 (1.30)	4 (0.57)	4 (0.57)	1 (1.00)	3 (1.50)
感染性胃腸炎	69 (2.03)	22 (3.14)	14 (1.40)	10 (1.43)	19 (2.71)	2 (2.00)	2 (1.00)
水痘	8 (0.24)		5 (0.50)	2 (0.29)		1 (1.00)	
手足口病	34 (1.00)	1 (0.14)	4 (0.40)	20 (2.86)	9 (1.29)		
伝染性紅斑	3 (0.09)		3 (0.30)				
突発性発しん	17 (0.50)	12 (1.71)	1 (0.10)	3 (0.43)	1 (0.14)		
百日咳							
ヘルパンギーナ	1 (0.03)				1 (0.14)		
流行性耳下腺炎	8 (0.24)	2 (0.29)	2 (0.20)	2 (0.29)	2 (0.29)		
眼科定点数	*9*	*1*	*3*	*2*	*2*	*0*	*1*
急性出血性結膜炎						－	
流行性角結膜炎	3 (0.33)	1 (1.00)	1 (0.33)	1 (0.50)		－	
基幹定点数	*6*	*1*	*2*	*1*	*1*	*1*	*0*
細菌性髄膜炎							－
無菌性髄膜炎							－
マイコプラズマ肺炎							－
クラミジア肺炎							－
感染性胃腸炎（ロタウイルス）							－

上段 ：報告数
（下段）：定点当たり報告数 報告数÷定点数

❖全数把握感染症報告状況❖ （ ）は保健所別内訳

1類感染症	
2類感染症	結核4件（奈良市2、郡山1、葛城1）
3類感染症	
4類感染症	
5類感染症	

✤第44週のトピックス✤

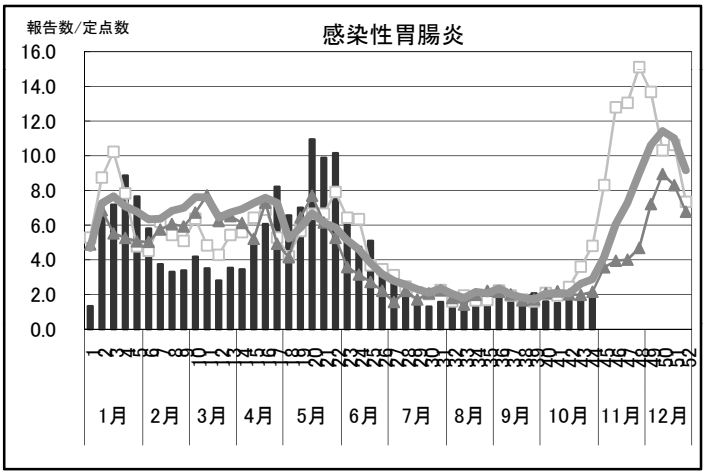
西アフリカ諸国におけるエボラ出血熱の流行に関するリスクアセスメント(2014年10月31日現在） 国立感染症研究所ホームページ
http://www.nih.go.jp/niid/ja/ebola/1094-idsc/5127-ebola-ra141031.html

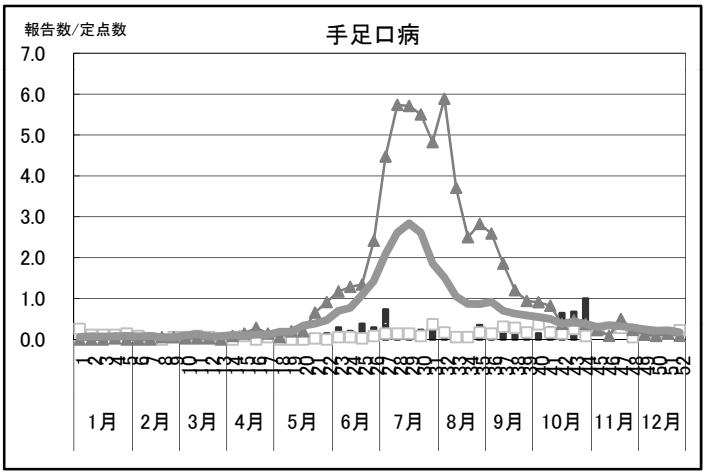
年齢別報告数

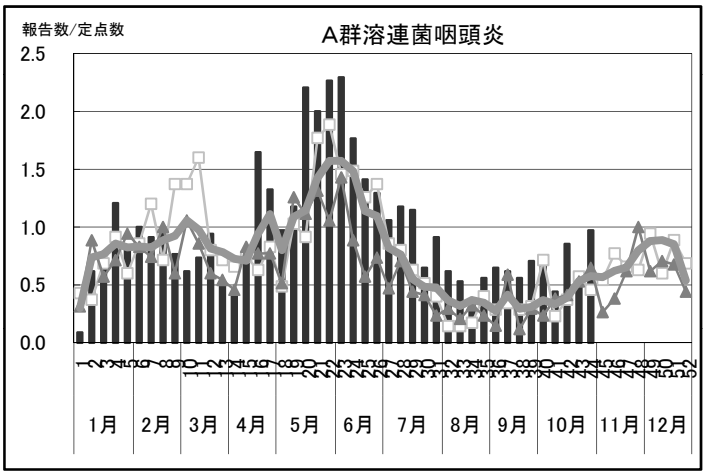
年齢区分	*年齢*	*0-5M*	*6-11M*	*1歳*	*2*	*3*	*4*	*5*	*6*	*7*	*8*	*9*	*10-14*	*15-19*	*20-29*	*30-39*	*40-49*	*50-59*	*60-69*	*70-79*	*80-*	*合計*	*累計*
インフルエンザ	男													2				1				3	5984
	女						1									1	1					3	5991
年齢区分	*年齢*	*0-5M*	*6-11M*	*1歳*	*2*	*3*	*4*	*5*	*6*	*7*	*8*	*9*	*10-14*	*15-19*	*20-*							*合計*	*累計*
RSウイルス感染症	男	3	3	7	2		1	1														17	251
	女	1	5	6	1	1				1												15	220
咽頭結膜熱	男			2	1	1			1													5	472
	女					1	1	1	1													4	389
A群溶連菌咽頭炎	男	1			1		3	4	2	1	1	1	1									15	755
	女						2	1	3	3	2		4	2	1							18	686
感染性胃腸炎	男		2	5	5	3	1	4	2	1	3	1	2		5							34	3218
	女		1	7	1	8	2	3	3	2	2		2		4							35	2955
水痘	男		1		1	1			1	1	1											6	568
	女							1		1												2	492
手足口病	男			3	12	3	1			1												20	144
	女			4	5	2	2			1												14	109
伝染性紅斑	男			1		1																2	59
	女						1															1	50
突発性発しん	男		6	4					1													11	287
	女		4	2																		6	240
百日咳	男																						1
	女																						1
ヘルパンギーナ	男					1																1	668
	女																						599
流行性耳下腺炎	男					2	2		1				1									6	100
	女			1				1														2	90
年齢区分	*年齢*	*0-5M*	*6-11M*	*1歳*	*2*	*3*	*4*	*5*	*6*	*7*	*8*	*9*	*10-14*	*15-19*	*20-29*	*30-39*	*40-49*	*50-59*	*60-69*	*70-*		*合計*	*累計*
急性出血性結膜炎	男																						
	女																						
流行性角結膜炎	男			1		1													1			3	82
	女																						106
年齢区分	*年齢*	*0歳*	*1-4*	*5-9*	*10-14*	*15-19*	*20-24*	*25-29*	*30-34*	*35-39*	*40-44*	*45-49*	*50-54*	*55-59*	*60-64*	*65-69*	*70-*					*合計*	*累計*
細菌性髄膜炎	男																						6
	女																						1
無菌性髄膜炎	男																						5
	女																						2
マイコプラズマ肺炎	男																						4
	女																						5
クラミジア肺炎	男																						
	女																						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	男																						18
	女																						18

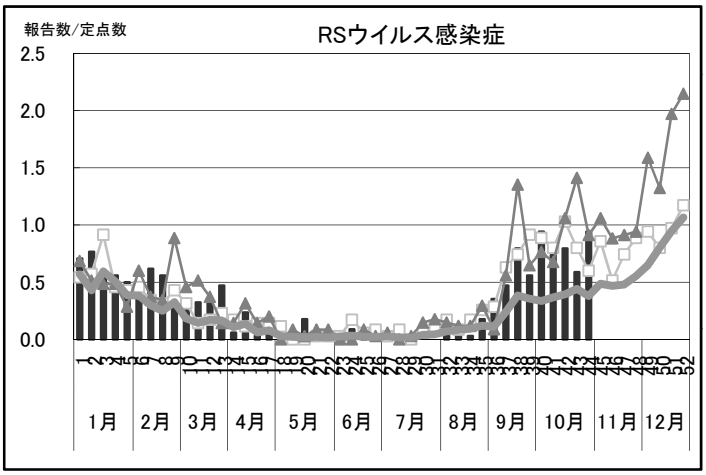
❖注目疾患の動向❖全て定点当たり報告数

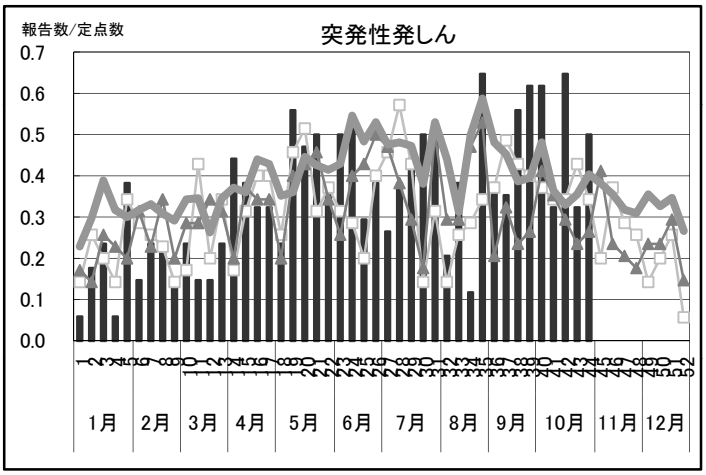
H26　H25　H24　過去10年平均

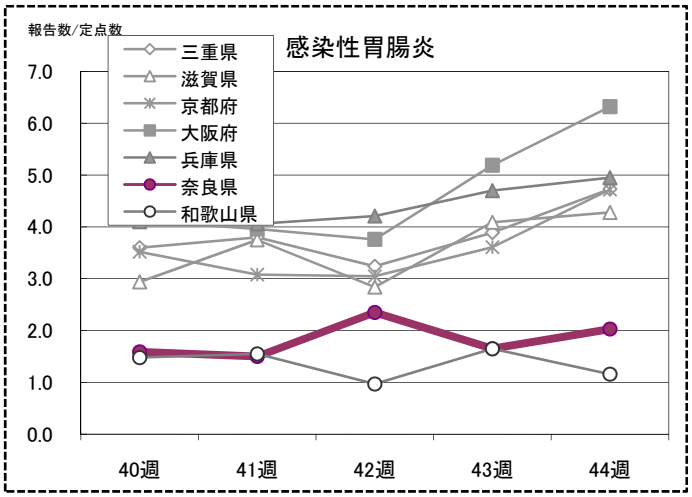


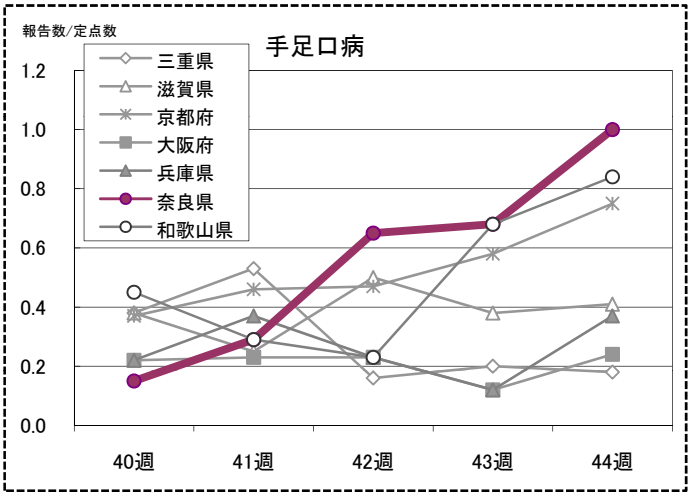


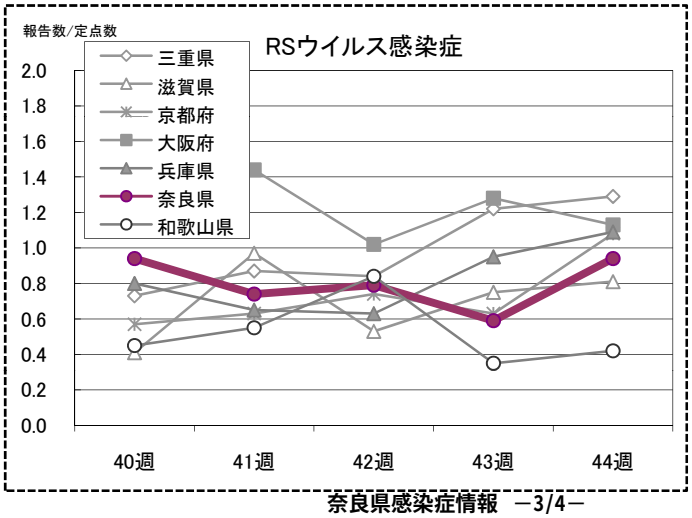












気になる話題

インフルエンザワクチンについて

11 月に入って、朝晩の冷え込みが一段と厳しくなってきました。これからインフルエンザの流行が始まってくるものと考えられます。今回の気になる話題では、インフルエンザに関する注意喚起の一環として、インフルエンザワクチンのワクチン株およびワクチン接種について情報提供します。

ワクチン株とその選定について（意外な時期に決定されています）

日本におけるインフルエンザワクチン株は、毎年、厚生労働省の依頼に応じて国立感染症研究所で開催される『インフルエンザワクチン株選定のための検討会議』で検討され、厚生労働省が決定・通達しています。

上記の検討会議では、各地方衛生研究所（当センターもその一つです）および国立感染症研究所において行われた国内インフルエンザウイルス株の抗原分析や住民の抗体保有状況調査の結果など様々な調査結果を踏まえて、インフルエンザウイルスの流行予測とワクチン製造株の選定を検討し、その結果に基づいてインフルエンザワクチン製造株を選定しています。選定過程では、国内のウイルス株に関する情報だけでなく、WHO により出された北半球次シーズンに対するワクチン推奨株とその選定過程、その他の外国における諸情報も検討材料となっています。

厚生労働省からのワクチン株の決定通知は毎年おおむね春季に公布されています。流行シーズンのおよそ半年前にワクチン株が決定され、それ以降に流行にむけてワクチンが製造されていることになります。

ワクチンの接種について

接種する意味は？

インフルエンザは体内に入ったインフルエンザウイルスが細胞に侵入して感染しますが、ワクチンは感染自体を抑える働きはありません。しかしワクチンには発熱やのどの痛み等の症状を抑える効果がある程度認められています。

いつ接種するの？

例年、日本ではインフルエンザは 12 月～3 月頃に流行します。ワクチン接種による効果が出現するまでに 2 週間程度を要するため、毎年 12 月中旬までにワクチン接種をすることが望ましいと考えられています。

効果はいつまであるの？

季節性インフルエンザワクチンの予防効果が期待できるのは、接種した 2 週後から 5 カ月程度までと考えられています。また、インフルエンザワクチンは、先程示したようにそのシーズンに流行が予測されるウイルスに合わせて製造されています。このため、インフルエンザの予防に充分な免疫を保つためには毎年インフルエンザワクチンの接種を受けた方がよいと考えられます。

＜参考＞

国立感染症研究所ホームページ（2014/15 シーズン インフルエンザワクチン株）

http://www.nih.go.jp/niid/ja/flu-m/2066-idsc/related/584-atpcs002.html

厚生労働省ホームページ（インフルエンザ Q&A）

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/qa.html#q17

（感染症情報センター）